

11	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16109001	遷移金属族触媒を用いた有機ヘテロ元素化学反応の体系化	山口 雅彦 (東北大学・大学院薬学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究はイオウやリンなどヘテロ元素の化学に関して新たな展開を図るもので、極めて独創的である。本プロジェクトは当初の計画通り、アルキルホスホニウム塩の合成法や C-H 結合から C-S 結合への変換反応などの開発に成功しており、順調に成果が上がっている。なお、研究状況報告書に記載する成果の一部に本プロジェクトに直接関連しない論文も見受けられいずれも学術的価値は高いが、関連しない論文を記載する必要は無い。</p> <p>このプロジェクトは、廃棄物を出さない環境調和型の製造プロセスへの変換が期待されることから、学問的なインパクトに留まらず、産業上においても注目される。</p>				
12	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16109003	老化における核内受容体とその標的因子の分子作用メカニズムの解明	井上 聡 (東京大学・医学部附属病院・講師)	A
<p>(意見等)</p> <p>老化研究を核内受容体に注目して解析を行い、エストロゲン受容体の制御因子 PP5 の発見、老化に伴う各種癌における EBAG9 と Efp の標的タンパク質 14-3-3σ の役割を明らかにした点は評価できる。こうした成果は臨床的にも重要な研究である。</p> <p>生理的老化と病的老化、細胞老化と個体での老化など解釈の難しい点も出てくると考えられるので、慎重な検証を行い、一層の研究の進展を期待したい。</p>				